

KYOKUTO

2025年3月期 第3四半期決算



極東開発工業株式会社
東証プライム:7226

1. 2025年3月期第3四半期 実績 P2 ~ 4
2. セグメント別実績 P5 ~ 13
3. 2025年3月期通期 業績予想 P14 ~ 20
4. 企業価値向上へ向けた取り組み P21 ~ 24

1. 2025年3月期第3四半期 実績

百万円	決算期		増減	増減率
	2024/3期 3Q	2025/3期 3Q		
売上高	90,311	96,642	+ 6,330	+7.0%
営業利益	2,161	3,792	+ 1,630	+75.4%
経常利益	2,686	4,174	+ 1,487	+55.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,454	3,885	+ 2,431	+167.2%
特装車事業 受注高	65,620	82,538	+ 16,918	+25.8%
特装車事業 受注残高	83,173	92,315	+ 9,142	+11.0%

2025年3月期 第3四半期 連結決算の ポイント

- ✓ 売上高は、特装車事業が大幅回復したことにより増加
- ✓ 全てのセグメントで増収増益(前期比)
- ✓ 国内トラックシャシ供給の改善と製品価格改定の効果が表れ、利益率が改善

連結決算実績 四半期別推移

(累計期間)

決算期 百万円	2024/3期				2025/3期			増減(対前年同期)	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	金額	%
売上高	26,091	59,570	90,311	128,026	28,626	64,007	96,642	+ 6,330	+7.0%
特装車	22,313	51,153	76,964	107,115	24,741	55,104	82,574	+ 5,610	+7.3%
うち海外	2,321	5,110	7,764	10,182	2,062	4,486	6,425	△ 1,339	△17.2%
環境	2,301	5,332	8,311	13,821	2,163	5,271	8,475	+ 163	+2.0%
パーキング	1,619	3,371	5,472	7,699	1,886	3,965	6,067	+ 595	+10.9%
営業利益	△ 87	1,311	2,161	4,825	931	2,740	3,792	+ 1,630	+75.4%
特装車	△ 240	743	1,262	2,451	733	2,064	3,071	+ 1,809	+143.4%
うち海外	156	402	554	773	101	299	372	△ 182	△32.9%
環境	200	691	1,074	2,644	197	714	1,319	+ 244	+22.7%
パーキング	145	342	551	780	191	424	674	+ 123	+22.4%

2. セグメント別実績



2025/3期 3Q時点

売上高

↑ 前年に比べ生産台数は減少するも、製品価格改定により増加

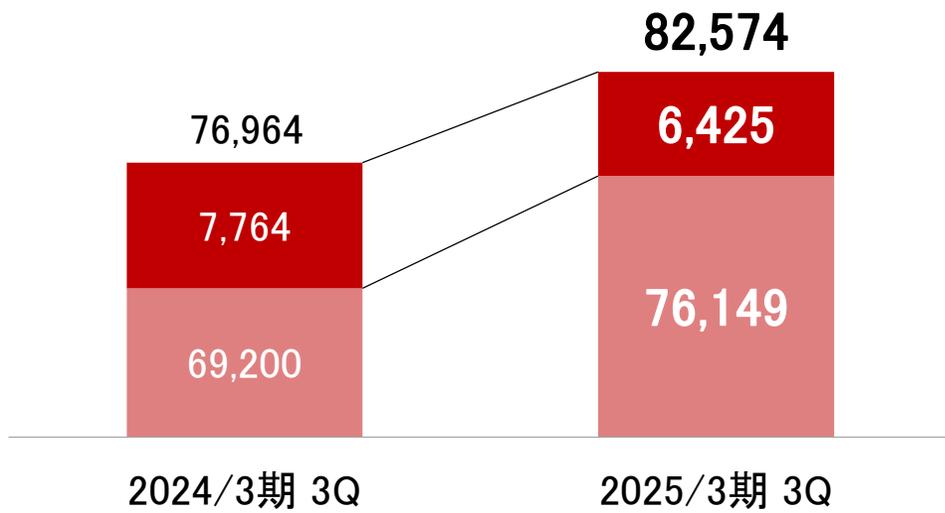
営業利益

↑ 製品価格改定により利益率が改善

↑ 極東、日本トレクスともに、トラックシャシ供給が改善され営業利益に大幅寄与

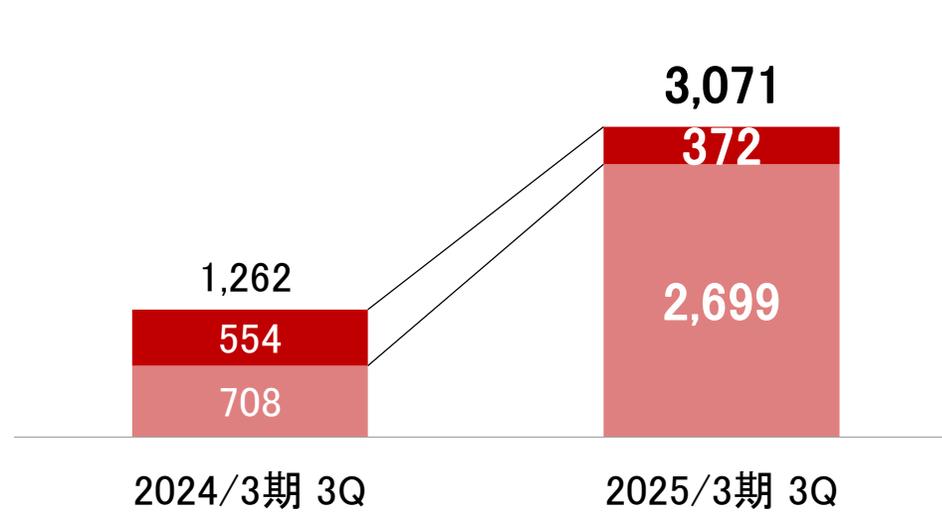
売上高 前期比 +7.3%

■ 国内 ■ 海外



営業利益 前期比 +143.4%

■ 国内 ■ 海外



連結営業利益増減要因（特装車事業）

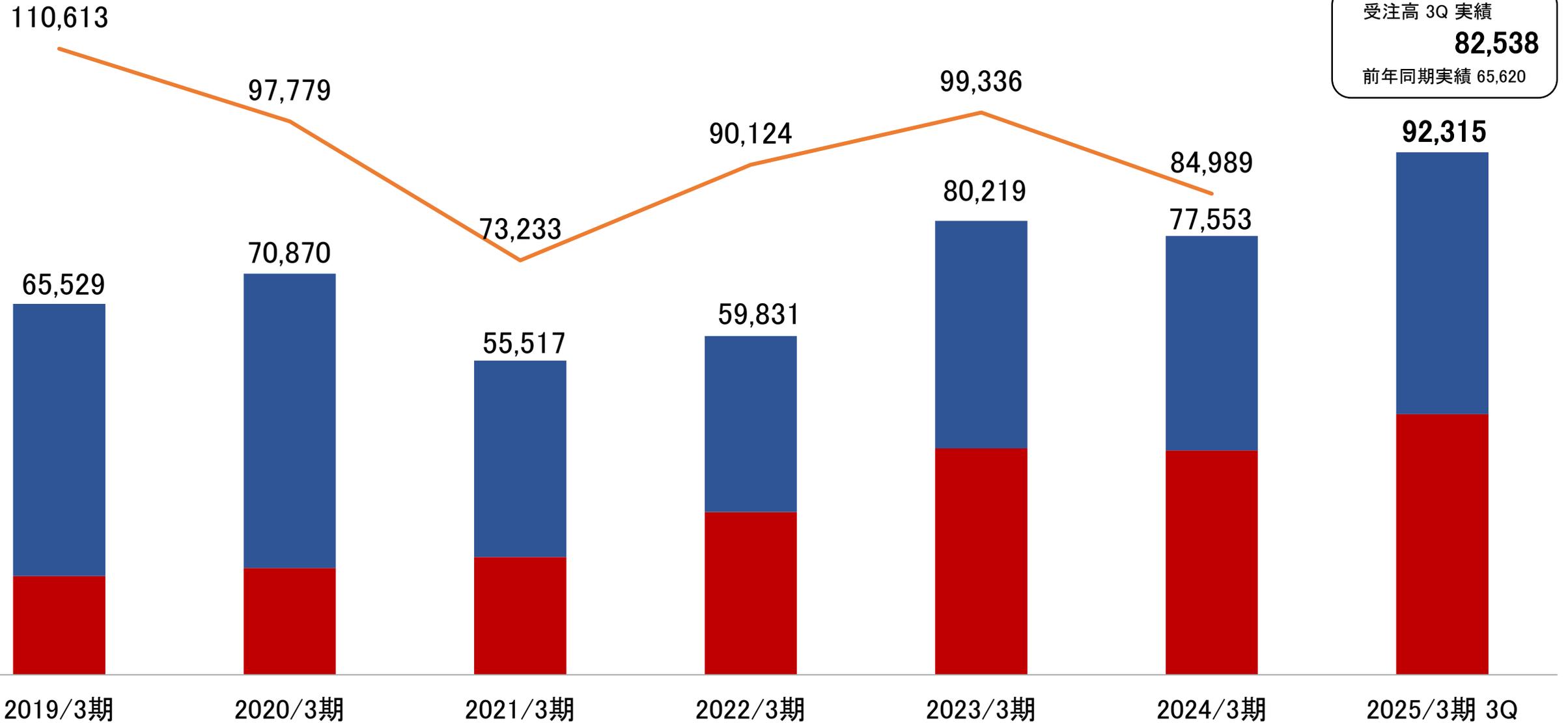
（単位：百万円）



特装車事業 受注高と受注残高

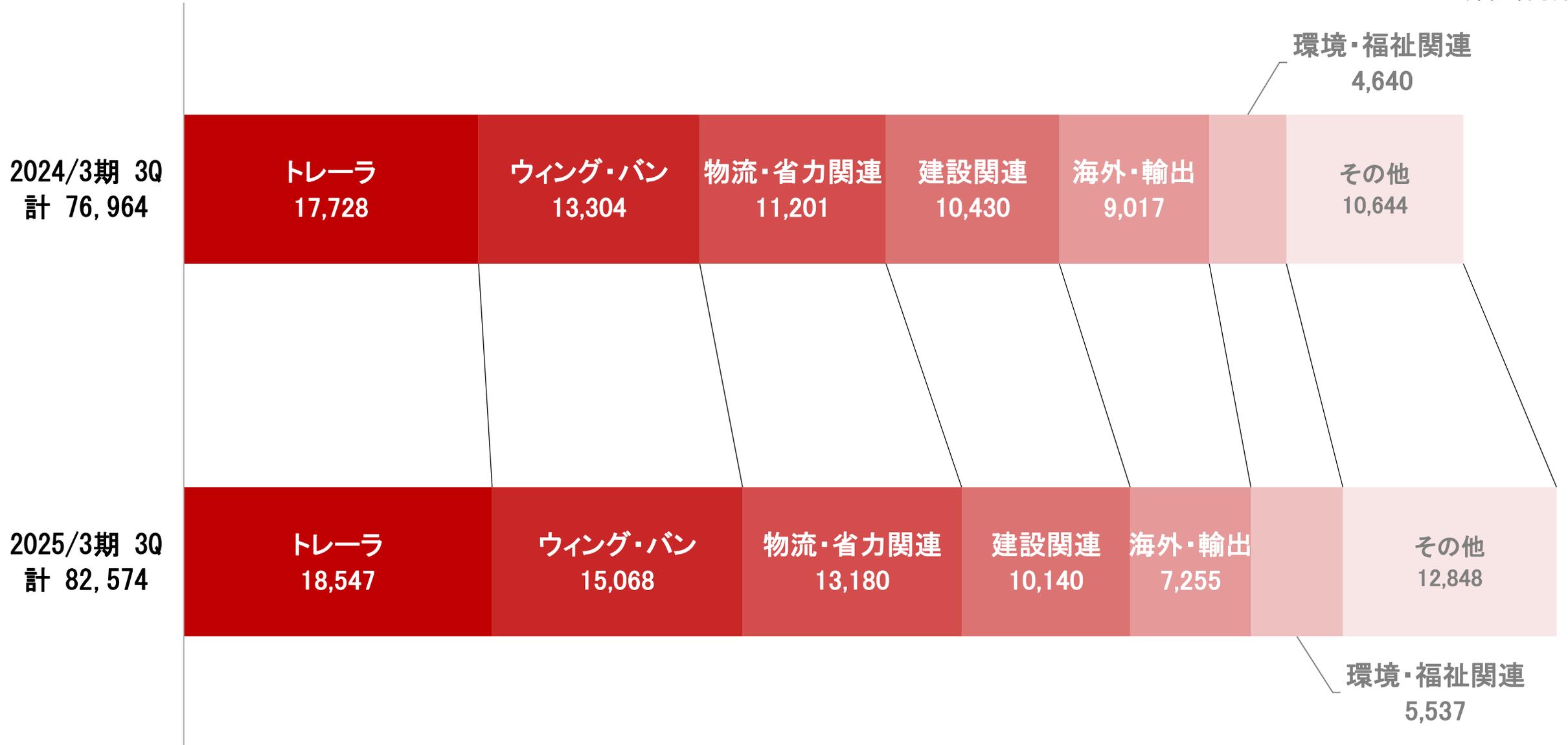
■ 極東 受注残高 ■ トクス 受注残高 — 受注高 合計

(単位:百万円)



特装車事業 売上構成

(単位:百万円)





2025/3期 3Q 時点

売上高

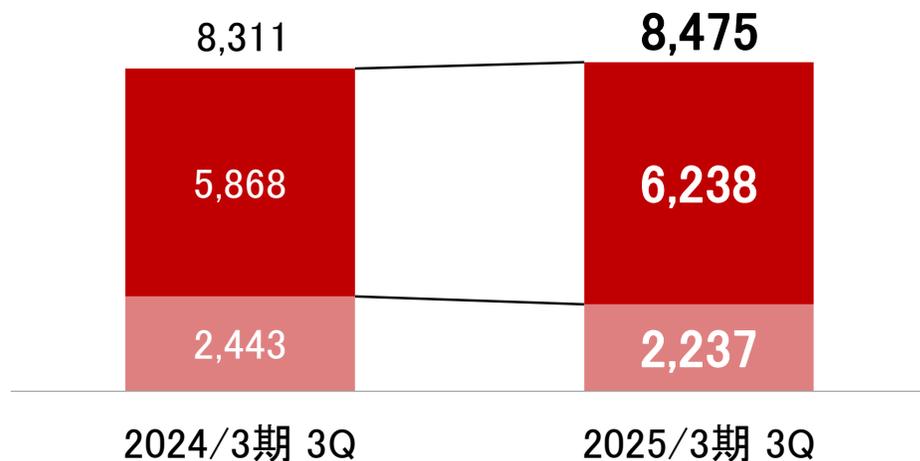
- ➔ プラント建設 受注済物件の建設工事が堅調
- ➔ メンテナンス・運転受託 順調に増加

営業利益

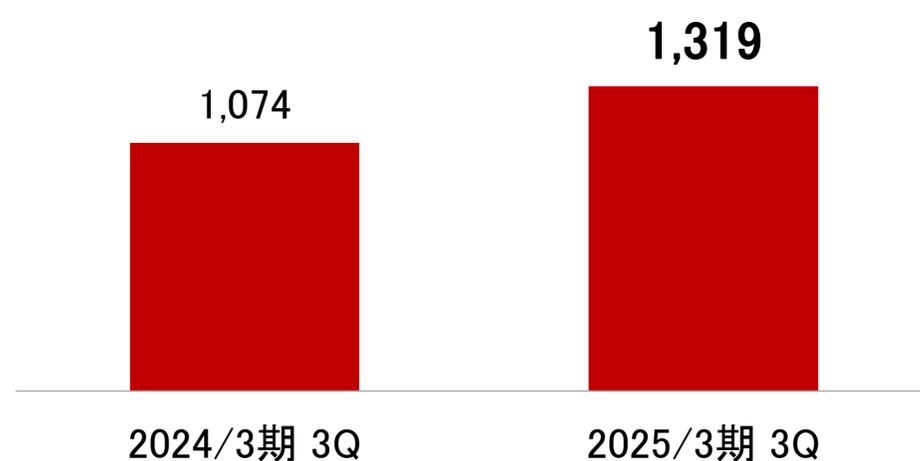
- ➔ メンテナンス・運転受託等のストックビジネスの増加により大幅増益

売上高 前期比 +2.0%

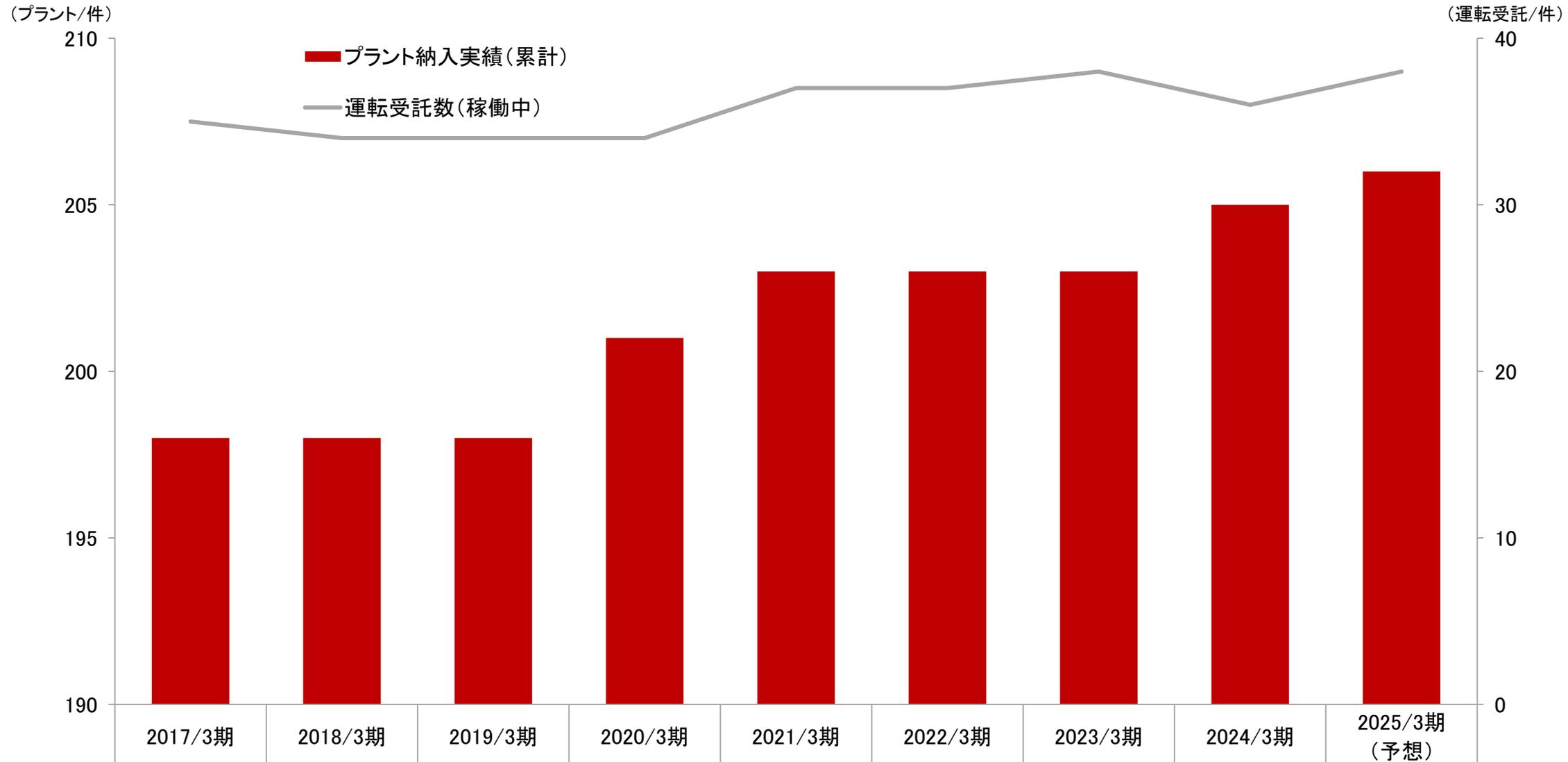
■ プラント ■ メンテナンス・運転受託



営業利益 前期比 +22.7%



環境事業 実績推移



■ プラント納入実績(累計)	198	198	198	201	203	203	203	205	206
— 運転受託数(稼働中)	35	34	34	34	37	37	38	36	38



2025/3期 3Q 時点

売上高

- ↑ 立体駐車装置のリニューアル・メンテナンスが好調
- ↑ 部品販売も好調
- ↑ コインパーキングは、年末年始が特に好調

営業利益

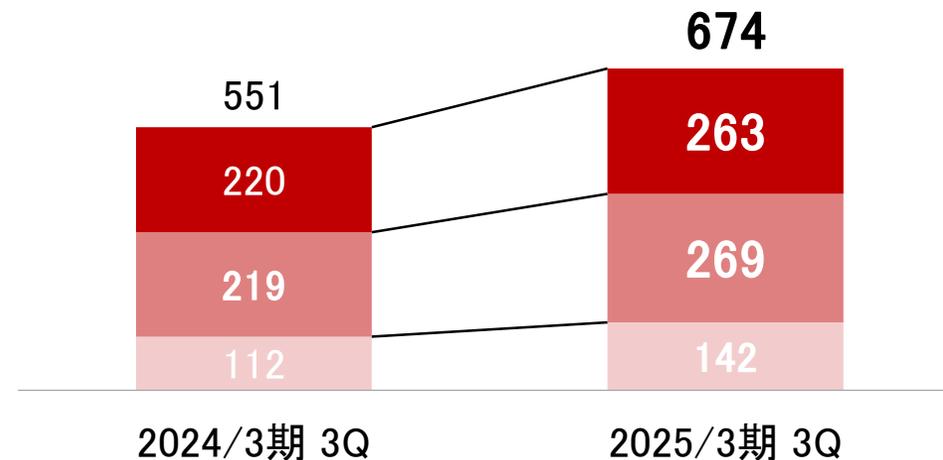
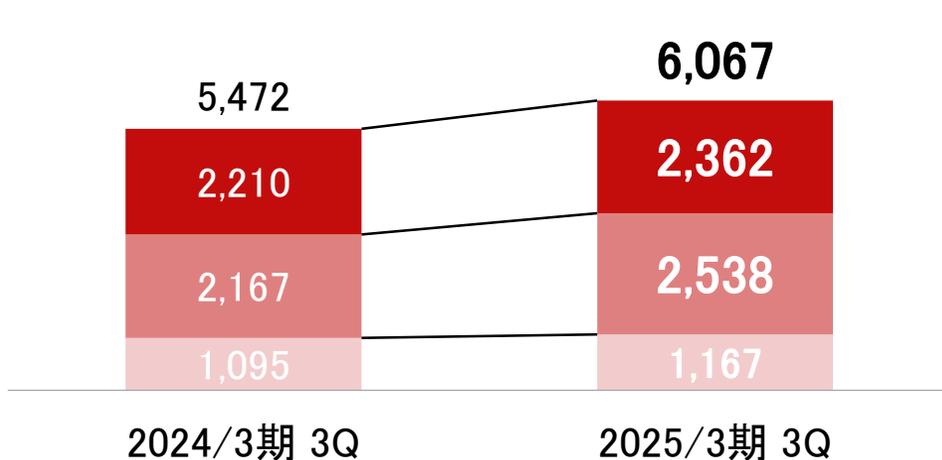
- ↑ スtockビジネスの売上増に伴い大幅増益

売上高 前期比 +10.9%

営業利益 前期比 +22.4%

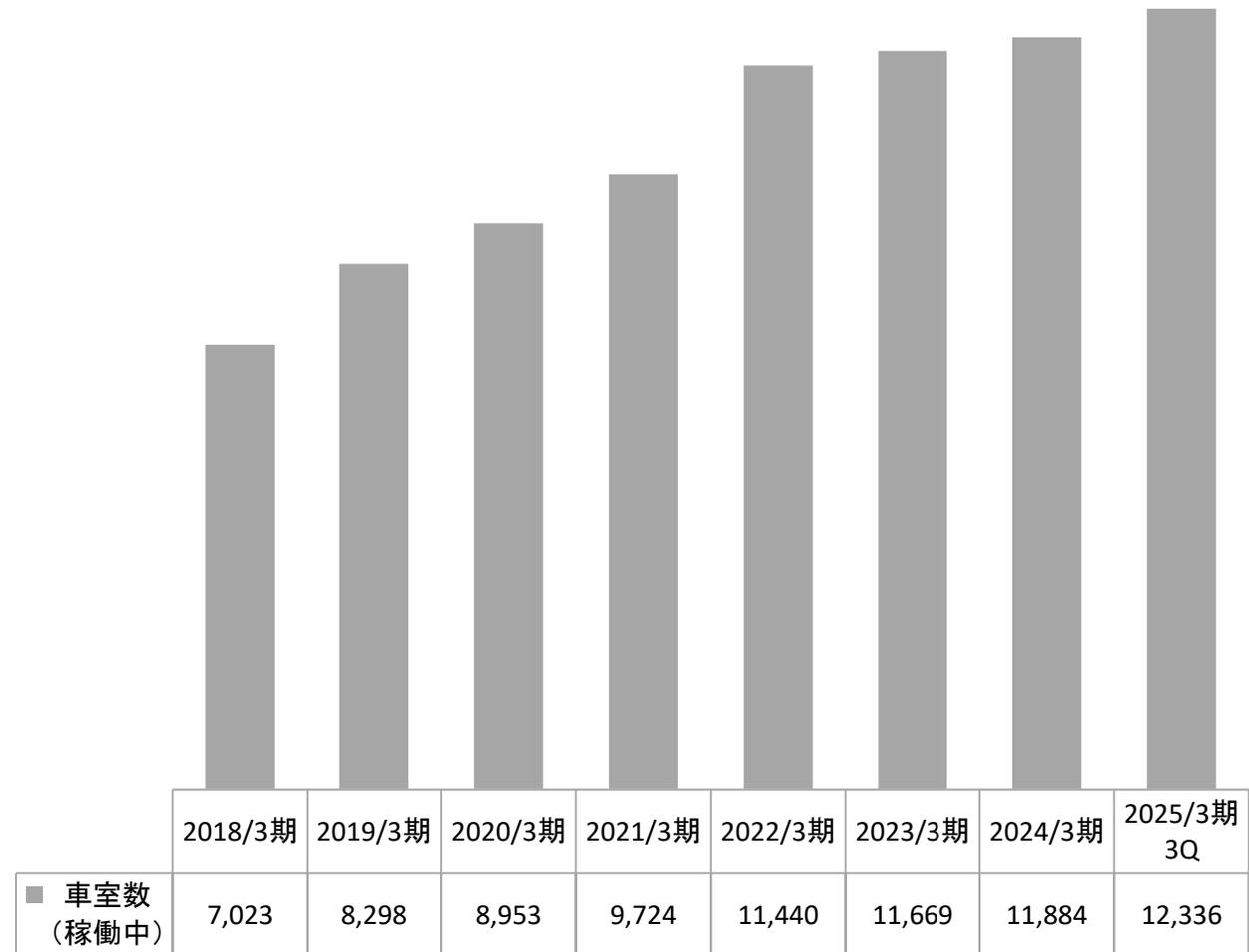
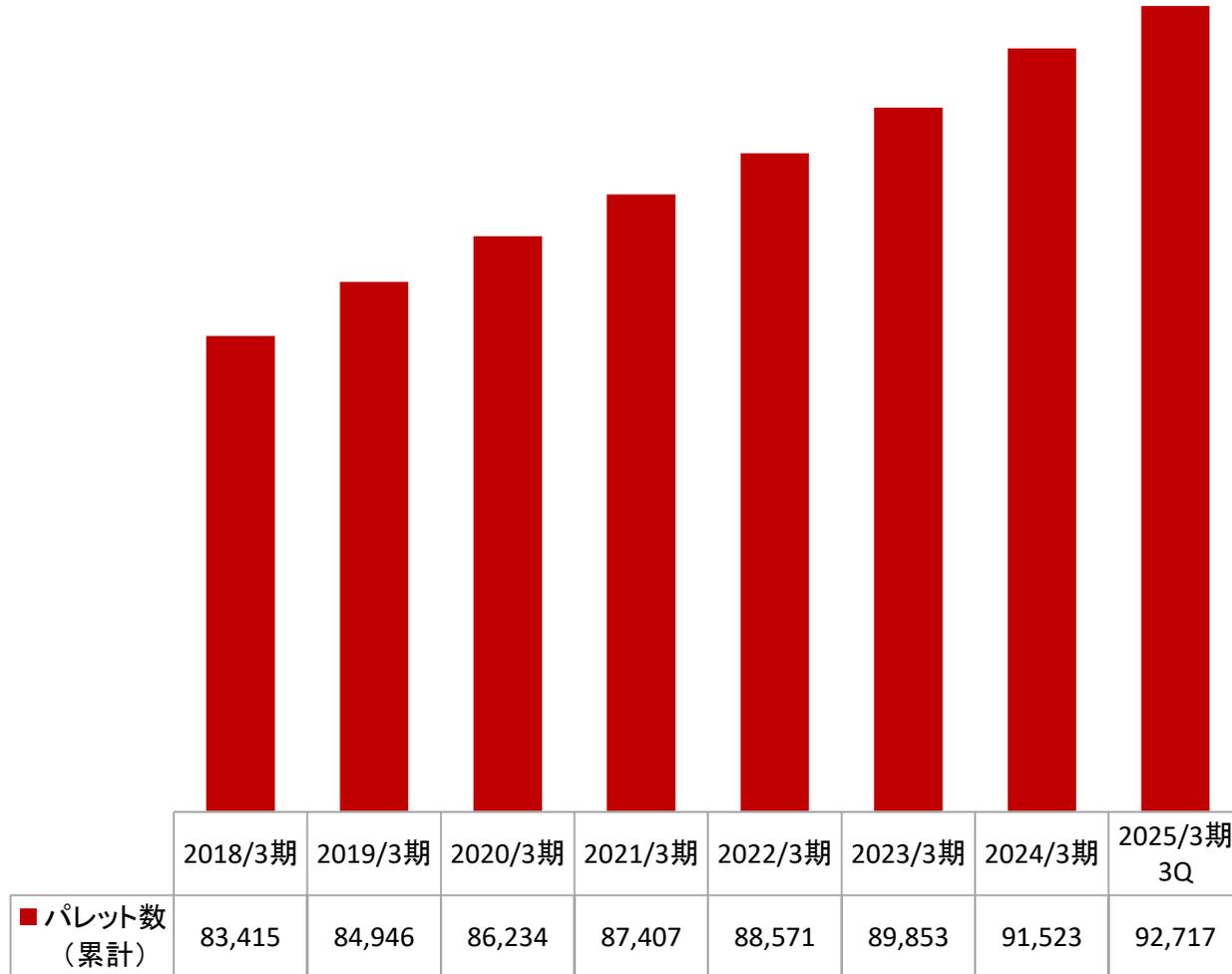
■ その他 ■ 立体駐車装置 ■ コインパーキング

■ その他 ■ 立体駐車装置 ■ コインパーキング



立体駐車装置パレット数(累計)

コインパーキング車室数(稼働中)



3. 2025年3月期通期 業績予想

2025年3月期 連結業績予想

百万円	決算期 2024/3期	2025/3期		増減 8月公表値 比	(増減率)
		8月公表	2月公表		
売上高	128,026	134,000	138,000	+ 4,000	+3.0%
営業利益	4,825	6,300	6,700	+ 400	+6.3%
経常利益	5,617	6,500	7,000	+ 500	+7.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,501	5,700	6,000	+ 300	+5.3%

2025年3月期
配当予想

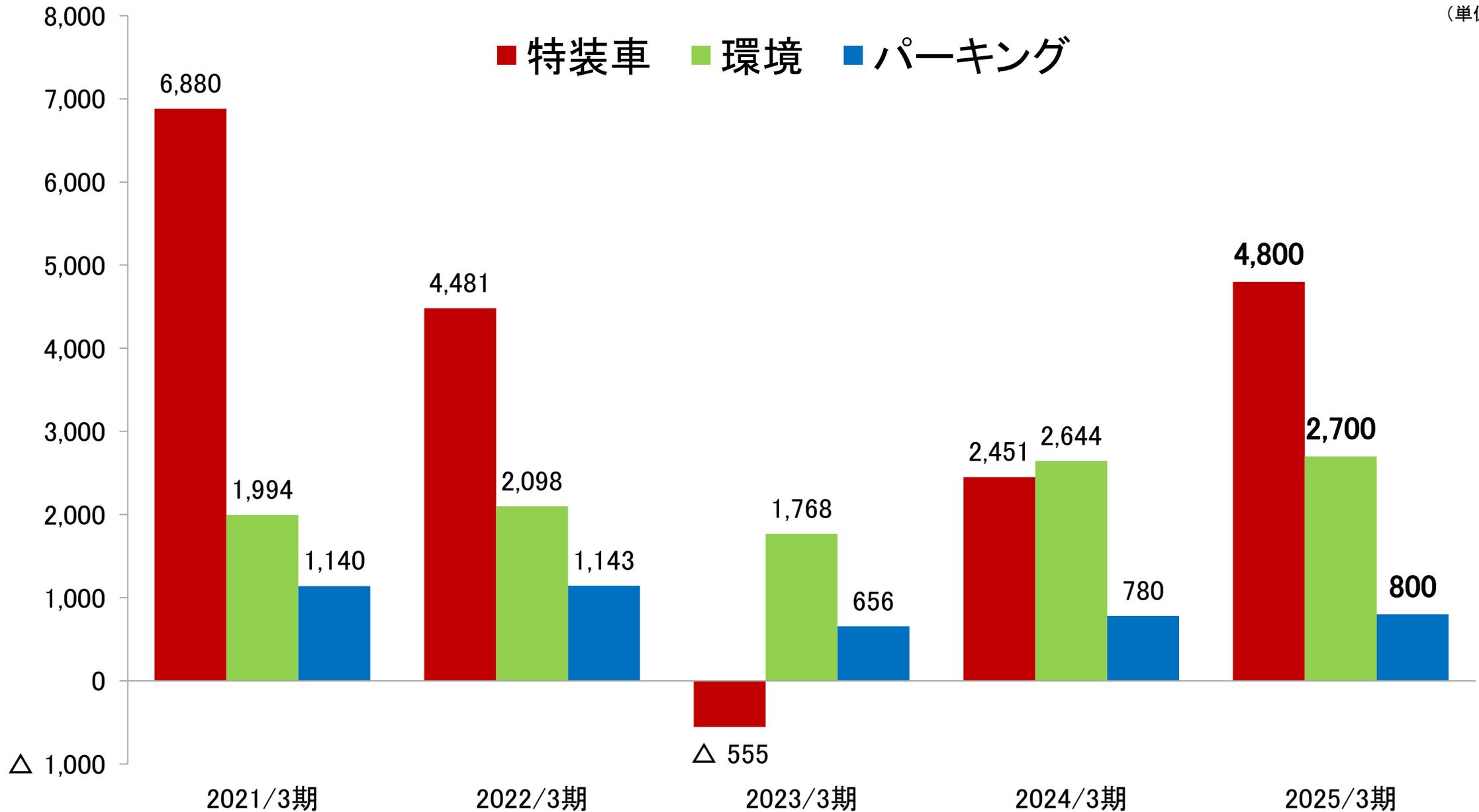
2024年8月公表の予想から修正

1株当たり配当金

中間配当 **75円** 期末配当 **83円** (前回公表75円から +8円) **計 158円**

連結営業利益推移（セグメント別）

(単位:百万円)



特装車事業

- 受注・受注残高 ともに高水準を維持

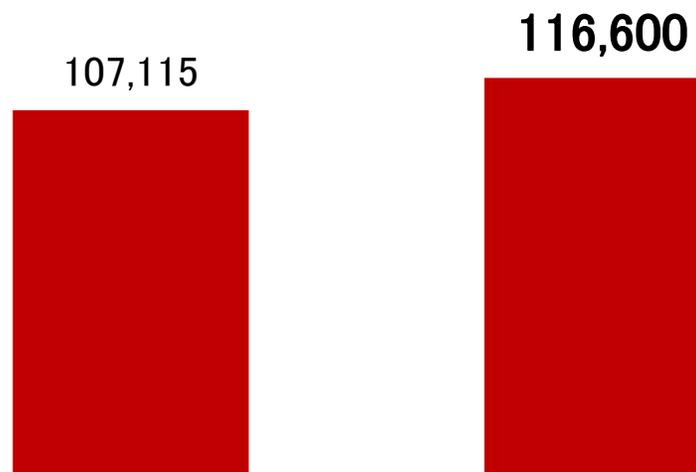
(受注残 極東:46,046百万円、トレクス:46,269百万円 合計 92,315百万円) ※12月末時点

- 国内トラックシャシ供給の改善

- 製品価格改定の効果

- オーストラリア STG社グループ化

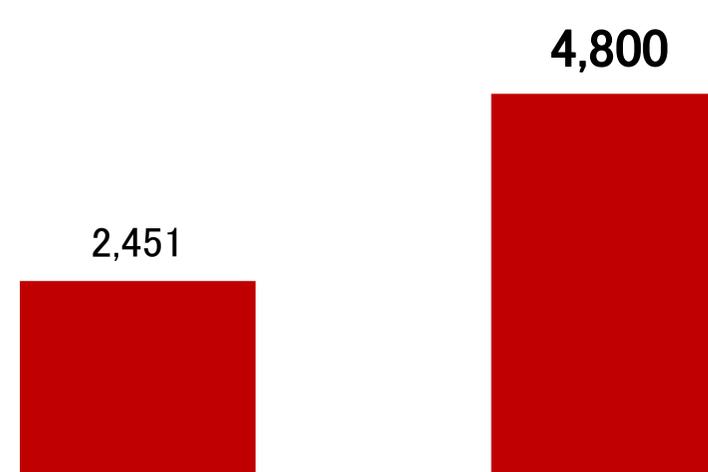
売上高 前期比 +8.9%



2024/3期

2025/3期

営業利益 前期比 +95.8%



2024/3期

2025/3期

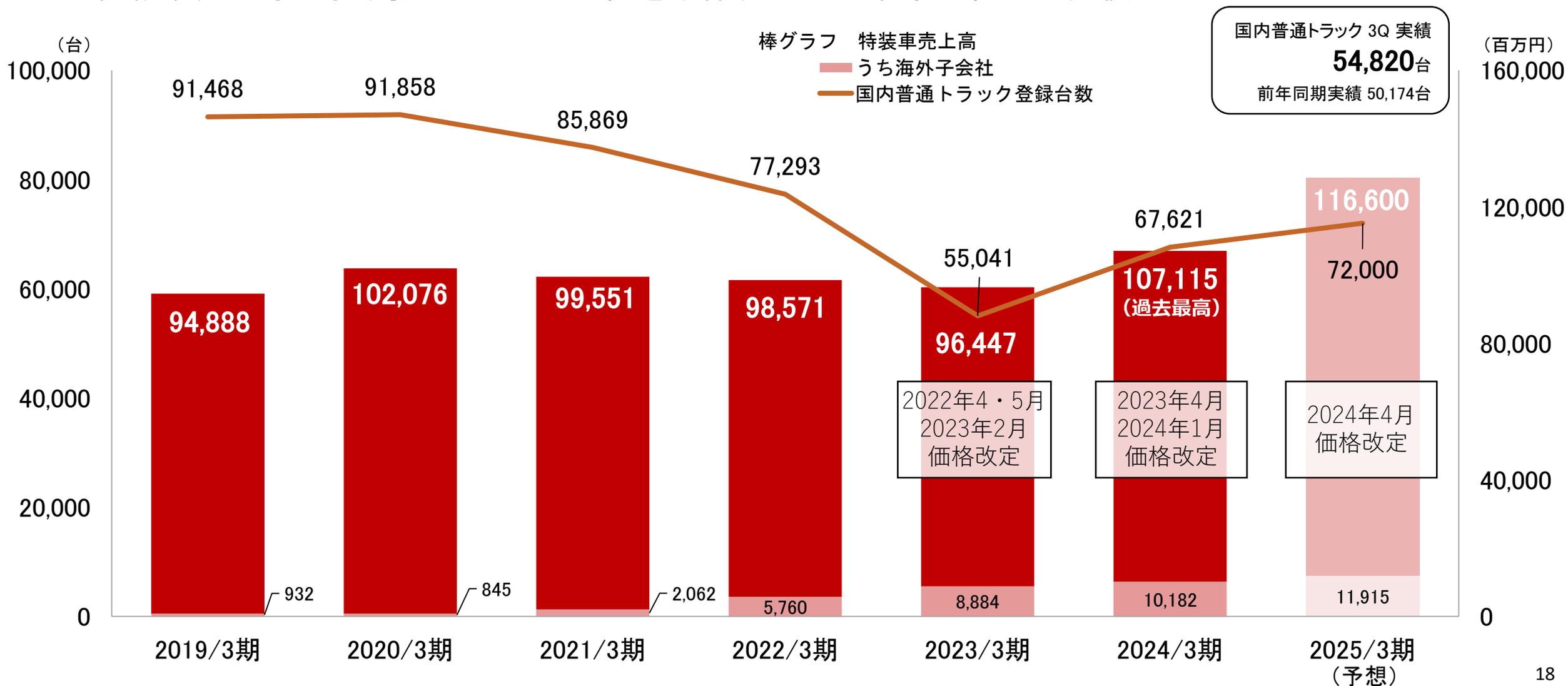
営業利益率

2.3%

4.1%

トラック市場と特装車事業の売上高推移

トラック市場はコロナ・半導体不足・シャシメーカーの認証不正等の影響で一時的に低迷するも、価格改定と海外事業強化により売上高を確保、シャシの供給も徐々に回復

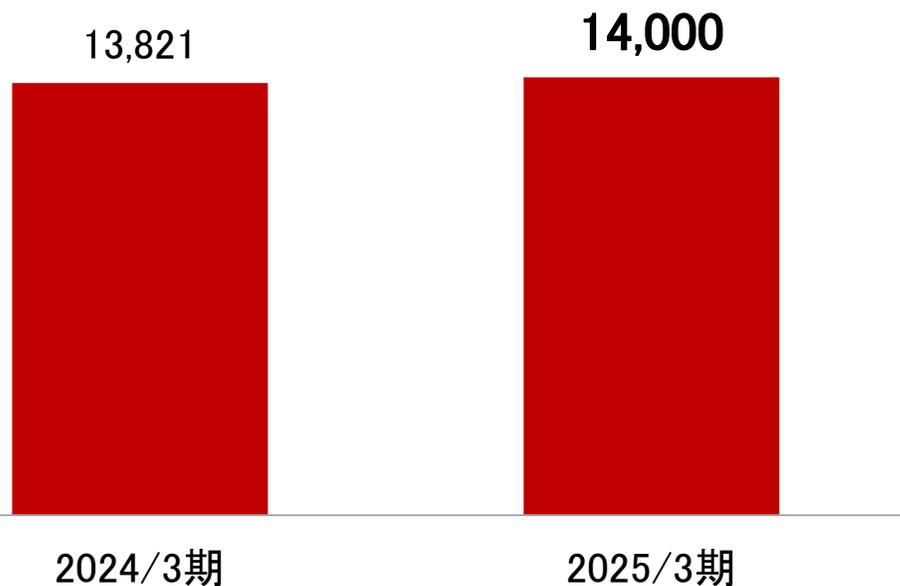


環境事業

(単位:百万円)

- プラント建設工事が順調（進行中 計8件 北海道、東京、埼玉、石川、兵庫、大分 など）
- 運転受託及びメンテナンス等のストックビジネスも好調

売上高 前期比 +1.3%



営業利益 前期比 +2.1%

プラント竣工: 2件

2,644

プラント竣工: 1件

2,700

営業利益率 19.1%

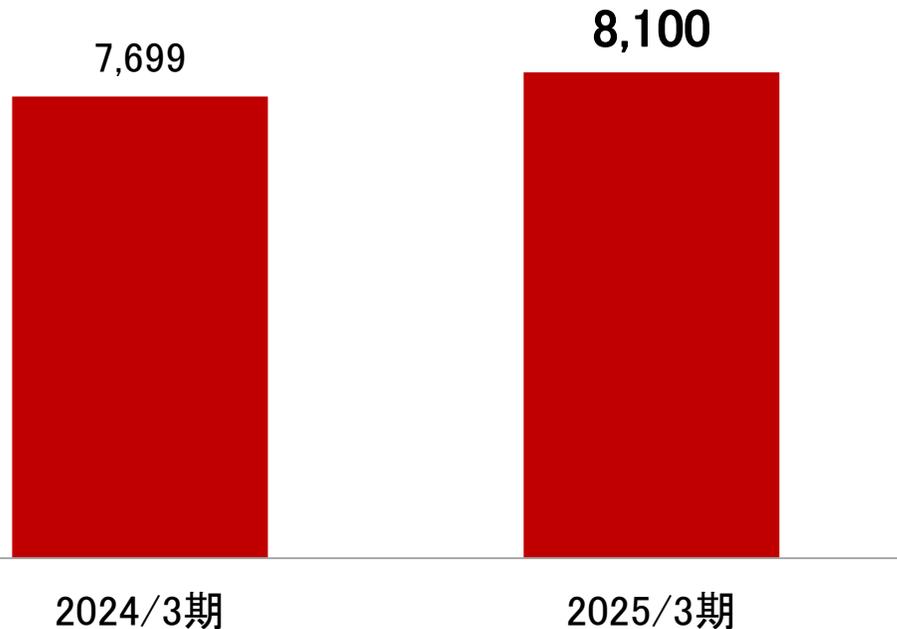
2025/3期 19.3%

パーキング等事業

- 立体駐車装置 : リニューアル・メンテナンス等のストックビジネス強化
- コインパーキング : 事業地・車室数増加と料金見直しにより収益確保
EV充電器「Charge-mo」を拡充し、他社と差別化

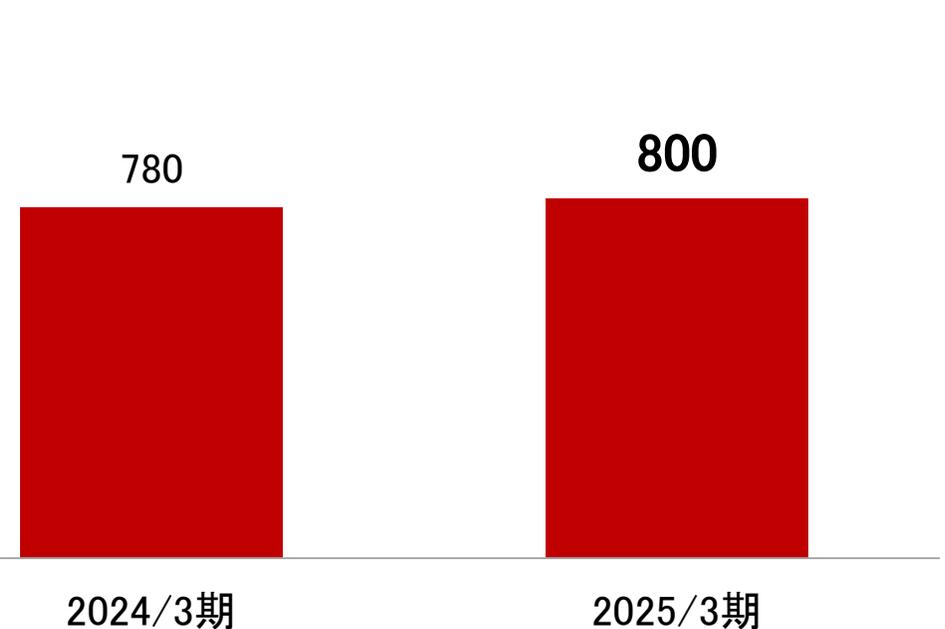
売上高

前期比 +5.2%



営業利益

前期比 +2.6%



営業利益率 10.1%

9.9%

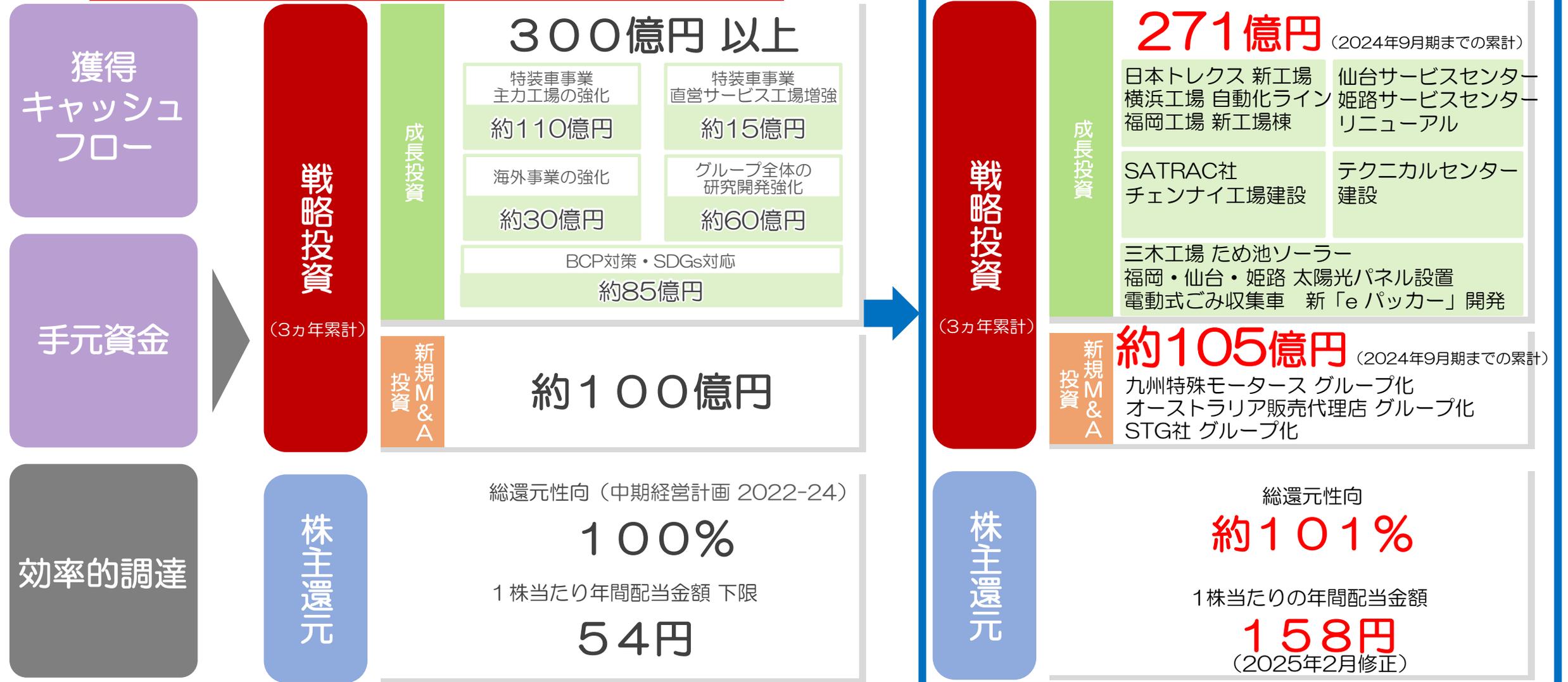
4.企業価値向上へ向けた取り組み

中期経営計画（キャッシュ・アロケーション） KYOKUTO

◆ 幅広いステークホルダーからの評価と企業価値向上を意識し、キャッシュ・アロケーションの適切な配分を推進

中期経営計画 2022-24 ～Creating The Future As One～

進捗状況

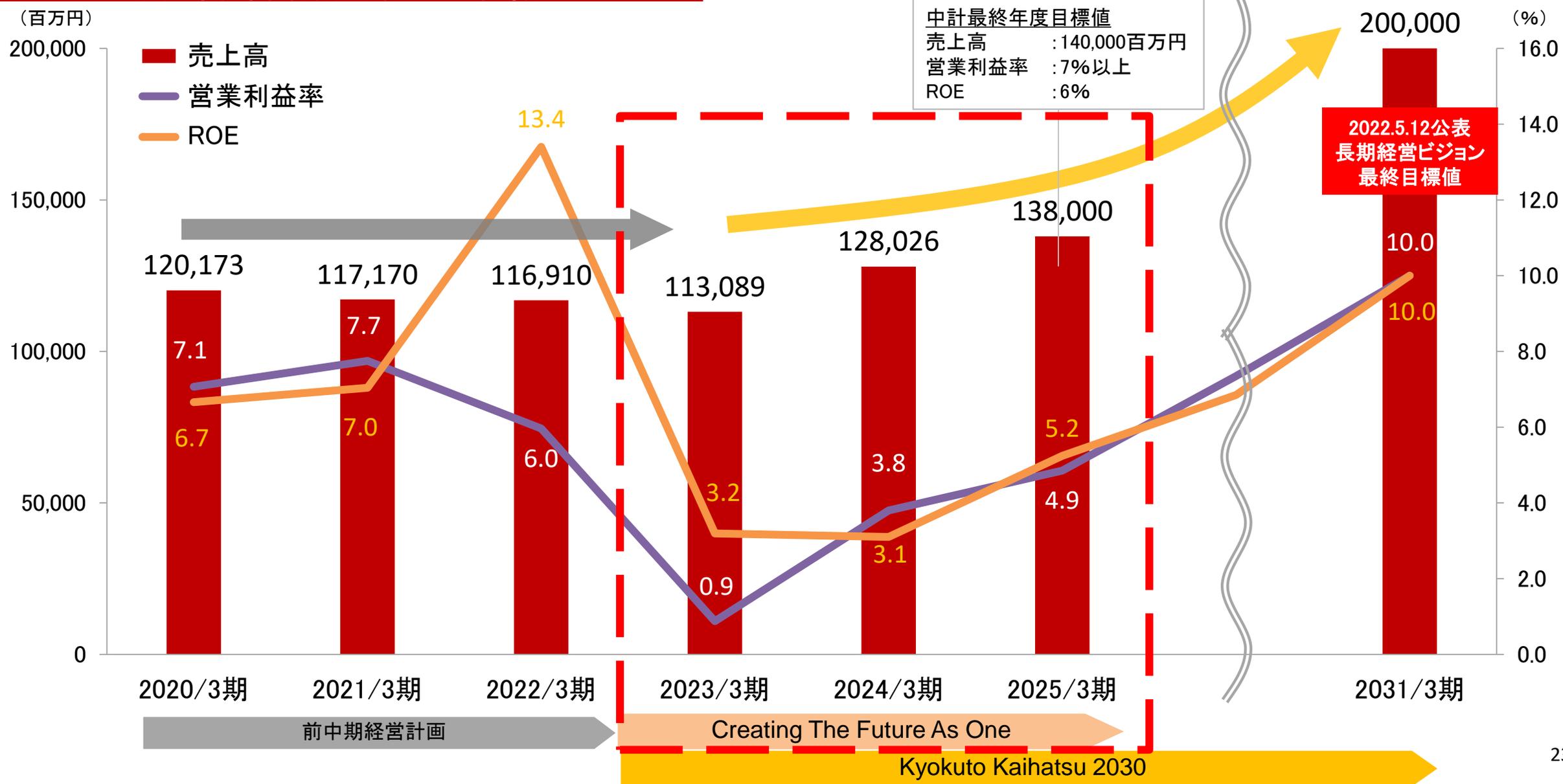


特装車事業 主力工場の強化	特装車事業 直営サービス工場増強
約110億円	約15億円
海外事業の強化	グループ全体の 研究開発強化
約30億円	約60億円
BCP対策・SDGs対応	
約85億円	

日本トレクス 新工場 横浜工場 自動化ライン 福岡工場 新工場棟	仙台サービスセンター 姫路サービスセンター リニューアル
SATRAC社 チェンナイ工場建設	テクニカルセンター 建設
三木工場 ため池ソーラー 福岡・仙台・姫路 太陽光パネル設置 電動式ごみ収集車 新「eパッカー」開発	

中期経営計画の進捗

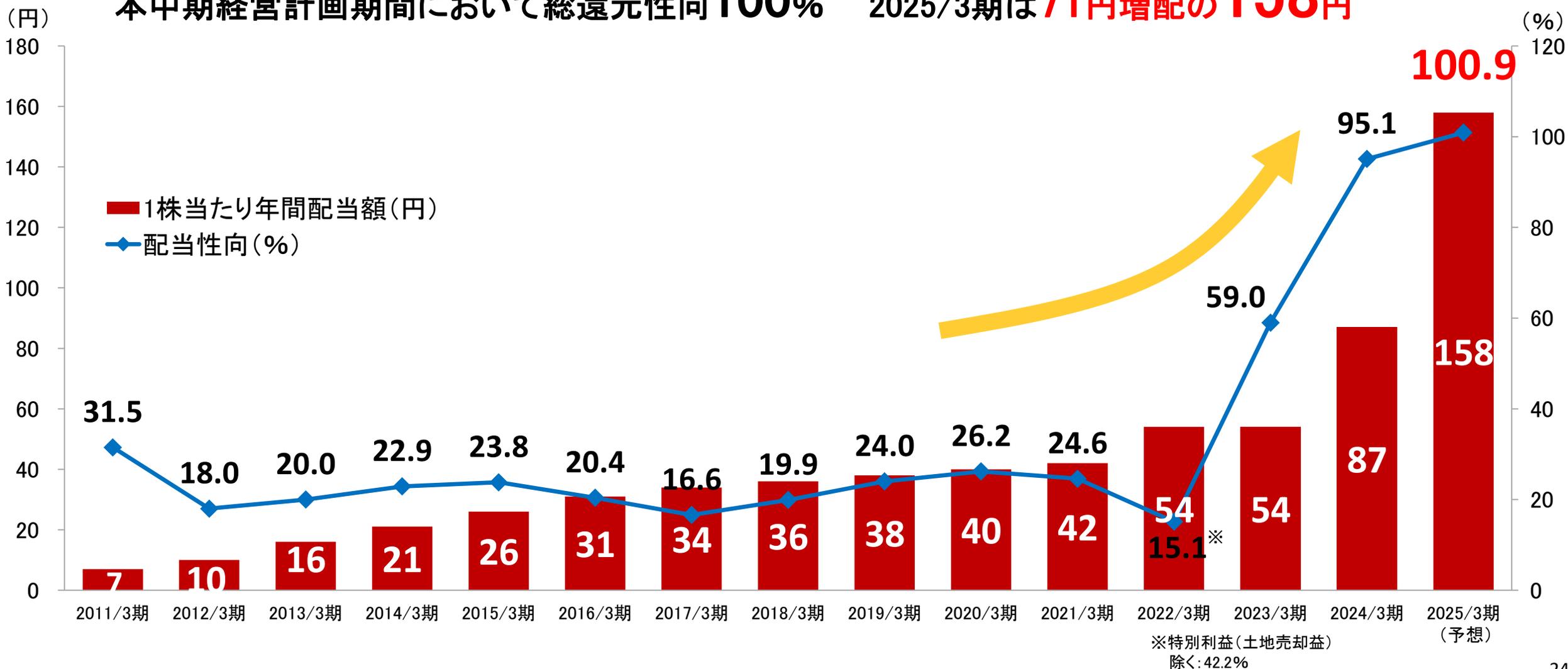
売上高・営業利益率・ROE目標



株主還元強化

株主還元の方針:年間配当額 1株当たり下限54円 +機動的な自己株式取得の実施

本中期経営計画期間において総還元性向100% 2025/3期は71円増配の158円



参考 補足資料

商 号 : 極東開発工業株式会社

本 社 : 大阪府大阪市中央区

設 立 : 1955年6月1日

資 本 金 : 11,899百万円

代 表 者 : 代表取締役社長 布原 達也

従 業 員 数 : 連結 3,237名 単独 1,133名 (2024年3月末現在)

連結子会社 : 26社

特装車事業



特殊自動車その他の輸送運搬機械の製造、架装及び販売、修理ならびに同部品の製造、販売 トレーラ・トラックボデー等の製造及び販売



環境事業



自治体・広域組合、廃棄物処理関連企業から受注しプラント建設・設置取付環境整備機器及び施設の運転受託、メンテナンス



パーキング等事業



立体駐車装置及び設備の製造、据付、販売及び修理
駐車場の経営（コインパーキング）



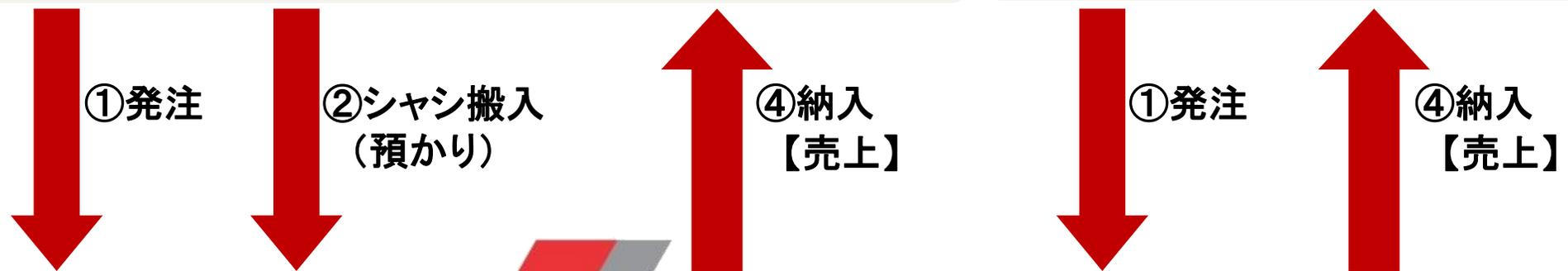
特装車事業の商流



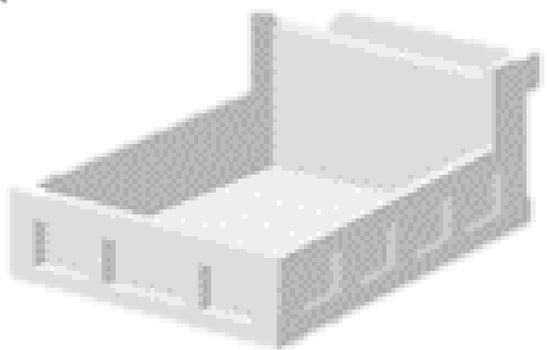
※トラックへの架装の場合

トラックメーカー・ディーラー

商社・ユーザー様



トラックの車台(シャシ)



ボデー



完成

※コンクリートポンプ車等一部の製品についてはシャシは買取。

長期経営ビジョン

長期経営ビジョン

- Kyokuto Kaihatsu 2030 -

3つのステップでのステップアップ戦略

1st STEP

- グループ間シナジーの強化
- 成長への積極的投資
- 社会的課題に対応する研究開発体制の強化
- サステナブル社会の実現・発展への着実な進捗

TERM : FY2022-24

2nd STEP

- グループ総合力をフル活用する事業展開と拡大
- 高い生産性と高品質の両立による強い影響力の発揮
- 社会的課題への積極的対応

TERM : FY2025-27

3rd STEP

- 「卓越した技術力」と「確固たる品質」の両立
- 安定的・効率的な利益創出の実現
- 事業活動・社会貢献領域の更なる拡大

TERM : FY2028-30

最終目標値

サステナビリティ・ビジョン^{※1}

- CO₂排出量削減 : $\Delta 38\%$ ^{※2}
- リサイクル率 : 99.0%以上の維持 (埋立廃棄物ゼロ)

※1 : 詳細は後日公表予定の「環境ビジョン2030」に掲載
※2 : 極東開発工業、日本トレクス、極東開発パーキングにおける2013年度比の原単位

経・営・業・績・ビ・ジ・ョ・ン

- 連結売上高 : 2,000億円
- 連結営業利益率 : 10%以上
- R O E : 10%

連結業績・目標

<2025年3月期の目標>

- 連結売上高 : 1,400億円以上 (新規M&A成長含む)
- 連結営業利益率 : 7%以上
- R O E : 6%

株主還元

総還元性向 (中期経営計画 2022-24)

100%

1株当たり年間配当金額 下限

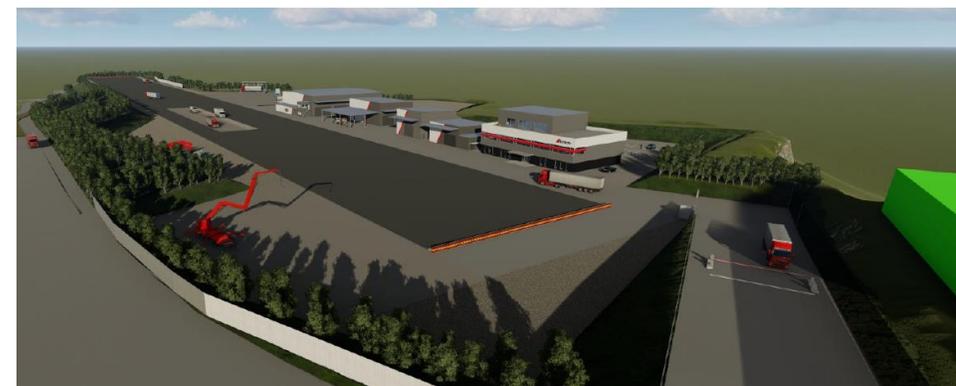
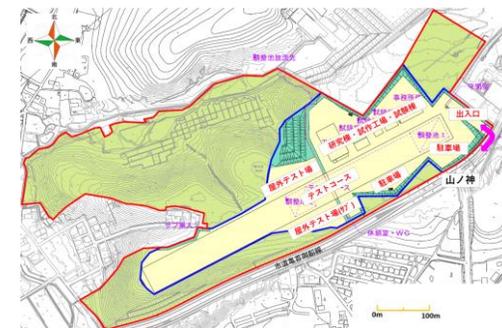
54円

主な設備投資・M&A

分野	投資項目	投資内容	実施時期
特装	テクニカルセンターの建設	研究開発体制強化 新製品開発速度 約2倍に向上	2026年度 完成予定
特装	インドSATRAC（サトラック）社 チェンナイ工場建設	生産能力強化、販路拡大によるシェアアップ	2025年度 完成予定
特装	日本トレクス 新工場建設	生産能力強化 約40%向上	2024年度 完成予定
特装	オーストラリア STG社グループ化	事業及び業績の拡大、グローバル展開の強化	2024年 11月実施
特装	横浜工場 小型ダンプトラック自動化ライン	生産能力強化 約45%向上	2024年 7月竣工
特装	仙台サービスセンター リニューアルオープン	サービス体制強化	2024年 4月竣工
特装	姫路サービスセンター リニューアルオープン	サービス体制強化	2024年 1月竣工
特装	福岡工場 新工場棟・新事務所 竣工	生産能力強化 約30%向上	2023年 9月竣工
特装	オーストラリア販売代理店 グループ化	豪州及びオセアニア圏への初拠点	2023年 7月実施
特装	九州特殊モータース グループ化	サービス体制強化	2023年 4月実施

テクニカルセンターの建設（2026年度完成予定）

- ◆ 新製品開発速度 約2倍に向上
- ◆ 社会的課題に対応する研究開発体制の強化/社会的課題への積極的対応
 - ・ 開発サイクルの短縮
 - ・ 軽量化・カーボンニュートラル
 - ・ 市場ニーズへの迅速な対応
 - ・ lot・AI・EV化への対応力向上
- ◆ 確固たる品質向上への取り組み
 - ・ トレーラの認証試験を行うテストコースの設置
 - ・ 規制への迅速な対応
- ◆ グループ間シナジーの強化



全景鳥瞰イメージ

日本トレクス 新工場建設（2024年度完成予定）

- ◆ 重要工程の自動化により生産能力 約40%向上 ※本社敷地内に建設中
- ◆ 生産工程における高所作業を減らし、安全な作業環境を構築
- ◆ より環境に配慮した工場へ

※部品塗装で発生する揮発性有機化合物を年間 約 6.3 t 低減
※太陽光発電の設置によりCO₂排出量を年間 約 3.2 t 削減



新工場イメージ

インドSATRAC社 チェンナイ工場建設（2025年度完成予定）

インドにおける旺盛な特装車需要により、2024年3月期に過去最高の売上となったグループ会社のSATRAC社は、生産能力の強化による受注の取り込みと販路拡大によるシェアアップ及び将来的な製品の輸出展開を目指し、タミル・ナドゥ州チェンナイ市近郊に新工場を建設中



STG社 グループ化（M&A）

オーストラリアの特装車メーカー STG Global Holdings Pty Ltd の株式を取得し、グループ化



取得理由

- ✓ 高い補完性を有する双方の製品ラインナップを活かした日本・オーストラリア市場を中心としたクロスセリング
 - ✓ 北米・欧州市場進出に向けたプラットフォームの獲得
 - ✓ オーストラリア・中国における両社の拠点活用/統合による効率化と収益性の向上
 - ✓ 連結業績への早期かつ中長期的な貢献を図り、事業及び業績の拡大とグローバル展開を一層強化
- ➡ 今後は一体経営の加速とシナジーの最大化を目指す

【概要】

名称	STG Global Holdings Pty Ltd
所在地	29-31 Evolution Drive, Dandenong South, VIC, 3175
代表者	Chief Executive Officer: Ross William Yendle
事業内容	特装車の製造・販売
資本金	36,808千オーストラリアドル（約3,717百万円）
設立年月日	2001年（ホールディングス化 2022年9月28日）

【主力製品群】



吸引掘削車



散水車/給水車



塵芥車

中期経営計画の進捗（サステナビリティ） KYOKUTO

◆ CO2排出量削減率

三木工場ため池ソーラー

- ▶ 三木工場の電力コスト・CO2排出量の削減を目的とした通称「ため池ソーラー」が今年1月稼働開始
- ▶ ため池に浮かぶ太陽電池フロートで発電された電力は、約1kmの自営線で工場に送電され、全量、自家消費
- ▶ 三木工場の消費電力の約4割を再生可能エネルギーによりまかない、CO2排出削減効果は年間1,000トン
- ▶ 施設概要

太陽電池モジュール 約2,600kW
 パワーコンディショナー 約2,000kW

◆ リサイクル率

リサイクル率進捗 97.8% (2023年度)

目標 99.0%以上 (2024年度)

※2021年度における極東開発工業のリサイクル率（99.5%）と同等の水準を維持する

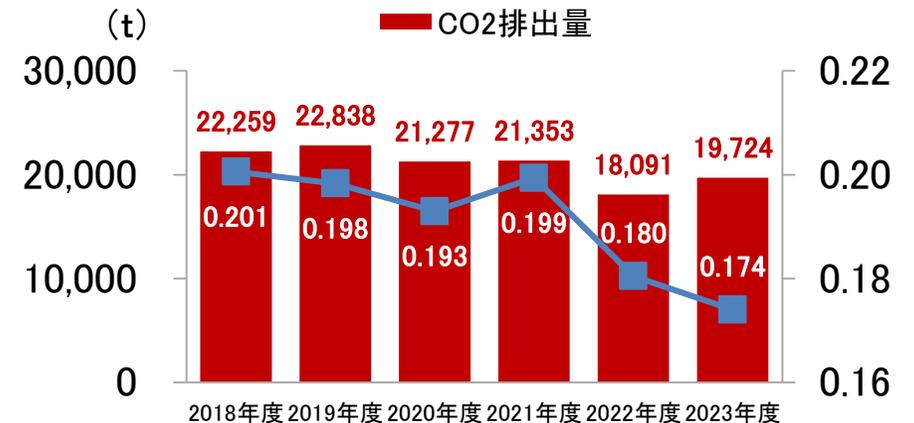
目標値と進捗

長期経営ビジョン	目標：△38%以上（2030年度） ※2013年度比の原単位
	進捗：△22.3%（2023年度）
中期経営計画	目標：△10%以上（2024年度） ※2020年度比の原単位
	進捗：△10.0%（2023年度）



ため池ソーラー（空撮）

太陽電池フロート

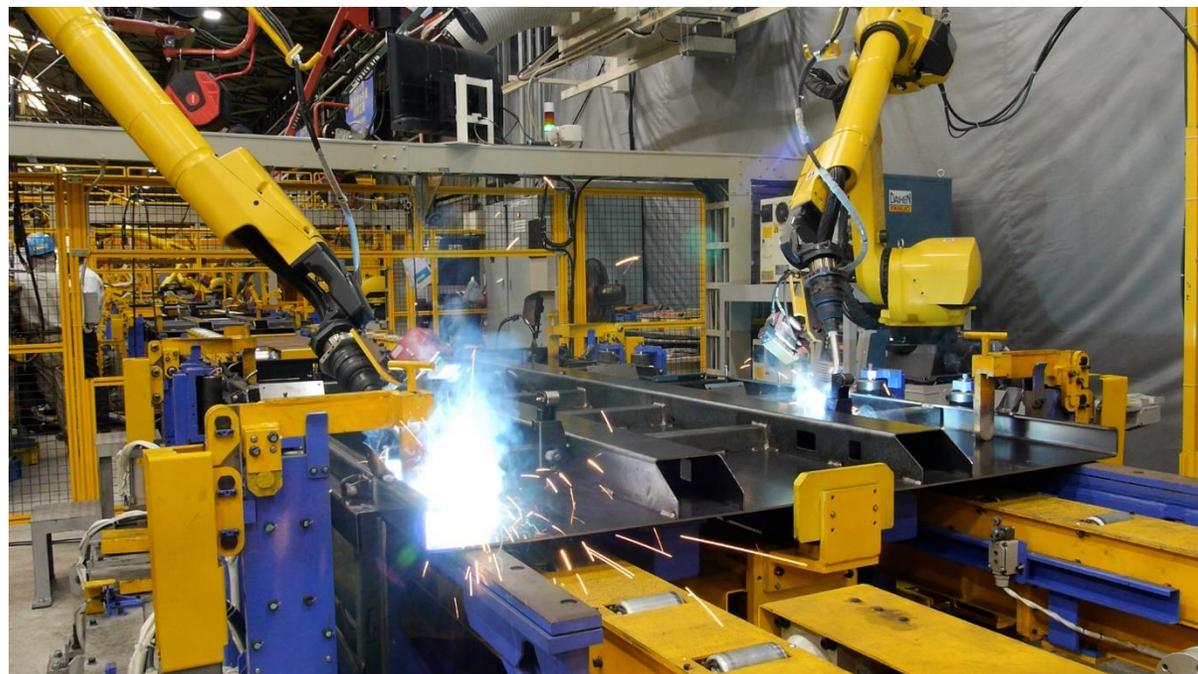


横浜工場（神奈川県大和市）内にて設備投資を行っておりました小型リヤダンプトラックボデーの自動化ラインが完成しました。

本ラインは、2021年9月より稼働している中型リヤダンプトラックボデーの自動化ラインに続き、同工場の主力製品のひとつである小型リヤダンプトラックボデー生産ラインを刷新したもので、自動溶接ロボットの増設をはじめ効率化を徹底的に追求の結果、従来のラインと比較して約45%生産性を向上させました。

特装車は、一品一様でのオーダーメイドによる製作が多いことや、大型～小型までサイズも非常に多岐に亘るため生産の自動化が難しい製品ですが、横浜工場における中型・小型リヤダンプトラックボデー自動化の実績を基に、他工程においても生産の効率化に向けた自動化を推進していく方針です。

(2024年12月24日ニュースリリース)



【設備概要】

投資額 約12億円

目的 ①生産体制の効率化
②生産自動化及び効率化・省人化

ロボット台数 20台

小型リヤダンプトラック▶



◀小型リヤダンプトラックボデー自動化ライン

2024年9月24日付けで大分県由布市様が発注する令和6年度 由布市ごみ中継施設整備工事を受注しました。

本事業は、新たな一般廃棄物処理施設が現施設より由布市内から遠方となることに伴うもので、由布市内で可燃ごみを集積し、当社製コンパクト（ごみ圧縮）装置により圧縮した後、専用の車両（脱着ボデー車）に積替えることにより、効率的かつ経済的に運搬するための施設となります。

(2024年10月21日ニュースリリース)



【施設概要】

受注金額 1,696百万円

処理能力 31.4t/6h

◀ 極東コンパクトシステム（イメージ図）



変化に柔軟に対応できる、グローバルな企業へ

AIMING TO BECOME A GLOBAL COMPANY WITH FLEXIBILITY TO ADAPT TO CHANGES

本資料の予想は発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

本資料の著作権は極東開発工業株式会社に帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く本資料を複製・配布することを禁止します。



極東開発グループは持続可能な
開発目標（SDGs）を支援しています。